受付
第220号
6.2.05
吉川市教育委員会
生涯学習課

【第１０号議案】文化財の市指定について　議案資料

建　議　書

令和６年２月５日

吉川市教育委員会
教育長　戸張　利恵　様

吉川市文化財保護審議委員会
委員長　　染谷　宗壱

令和６年１月１９日開催の令和５年度第２回吉川市文化財保護審議委員会において吉川市指定文化財候補についての調査報告及び市指定に関する検討を行いましたが、下記２件の文化財については出席委員全員から市指定文化財とすることの同意が得られたので、吉川市有形文化財（歴史資料）に指定されるよう建議します。

記

１　市指定とする文化財

(1) 名称及び点数　芳川尋常高等小学校校歌　千家尊福筆・１点

(2) 名称及び点数　三輪野江国民学校校歌原本一式及び額（①楽譜 ②送付状 ③認可証 ④三輪野江小学校校歌額（相上嶺南書）・４点

２　指定理由

(1) この校歌額は千家尊福の自筆作品にして千家と地域の関係を示す資料というだけでなく、明治から現代へ続く人々の希望の形の一つとして、学校の歴史や市の教育史においても貴重な歴史資料であるため

(2) 昭和 19 年の歌詞と完成した校歌の送付状並びに県からの認可証などが揃って残されていることは貴重であり、学校の歴史や市の教育史においても貴重な歴史資料であるため

３　附帯意見

調査報告書「その他」の意見に関し、当資料を適切な環境下のもとに管理・保存するための施設が必要であり、今後例えば博物館の収蔵庫のような専用保存施設の設置が望ましい。

４　添付資料

(1) 令和５年度　市指定文化財候補文化財　調査報告書一式（写し）

(2) 令和５年度　市指定文化財候補文化財　調査報告書一式（写し）

【事務局】吉川市教育委員会　生涯学習課　文化財保護担当

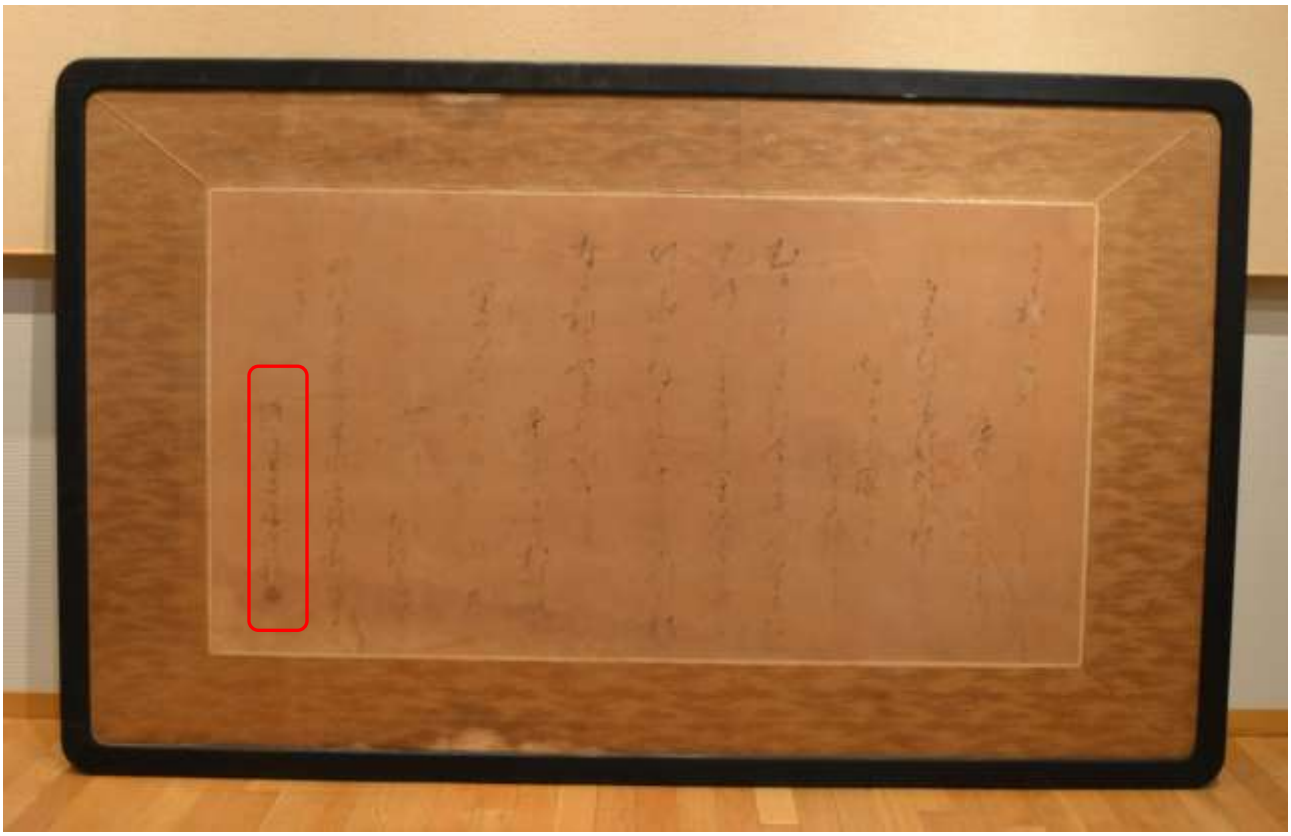
令和５年度　市指定文化財候補文化財　調査報告書

令和５年10月２日

種別・種類	有形文化財　歴史資料		
名　称	芳川尋常高等小学校校歌　千家尊福筆	点数	１点
寸　法	・外寸　高さ138.5㎝　幅229㎝　厚さ3.0㎝ ・本紙(書部分)　高さ88㎝　幅168㎝		
所在場所	吉川小学校　体育館内（※現在は当調査のため取り外し、市教委で管理）		
所有者	吉川市大字平沼73 吉川小学校		
管理者	所有者と同じ		
調査日・場所	情報収集・資料調査：5月10日　埼玉県立文書館【文化財保護担当】 資料確認調査：6月29日　市役所202会議室【調査員・文化財保護担当】		
調査員	染谷行宏委員・新井浩文委員		
史料の概要	・明治29年(1896)に同校（現吉川小学校）へ寄贈された千家尊福筆の校歌歌詞（紙本墨書）額装１点 ・千家尊福は明治期の埼玉県知事で県民から慕われ、県内及び市内の石碑（市内：重修加藤樋之碑）にも名を残している。		
調査報告	吉川小学校は明治 6 年(1873)延命寺境内に開かれた芳川学校に始まり、統合を経て明治 22 年(1889)に芳川尋常小学校となる。明治 25 年(1892)には芳川尋常高等小学校、昭和 16 年(1941)に吉川国民学校となり、昭和 22 年(1947)に現在の吉川小学校へと改称した。三輪野江小学校、旭小学校とともに市内最古の小学校である。 当資料は紙本墨書で、校歌を作詞した千家尊福が明治 29 年(1896)2 月芳川学校の新築にあたり書いたことが記されている。長年体育館内の外光があたる場所に掲示されていたため、紫外線による劣化損傷が激しい。 校歌の制定は明治 27(1894)年とされている。制定時期としては国内最古の明治26年(1893)東京都下谷区立忍が丘小学校には及ばないものの、制定当時と同じ曲・歌詞を歌い継いでいるという点では吉川小学校が最も古い校歌を維持しているものと思われる。 校歌が作られた経緯は不明だが、千家尊福は校歌制定時の明治27年には埼玉県知事に就いており、県民生活の向上に尽力したため住民からの支持が厚い人物であった。作曲の鈴木米次郎は音楽教育のほか軍歌の作曲を数多く行い、のちに東洋音楽学校（現東京音楽大学）を設立した。 歌詞は当時多く用いられた七五調で、千家の出雲大社宮司・歌人・詩人という背景からか、掛詞を用いて地域や子供たちの未来を祈り寿ぐ意図が感じられる。戦前の校歌は国家を重んじる内容になりがちであるが、比較的時代が早いせいか当歌詞にはその雰囲気は薄いと思われる。 この校歌額は千家尊福の自筆作品にして千家と地域の関係を示す資料というだけでなく、明治から現代へ続く人々の希望の形の一つとして、学校の歴史や市の教育史においても貴重な歴史資料であるといえる。		
その他	資料の保存場所については、調査前の場所である体育館ではなく、適切な環境下のもとに管理・保存されることが望まれる。		

別紙：資料１・資料２・資料３

資料１



芳川尋常高等小学校　校歌　千家尊福筆

【史料の一部を拡大】

従三位男爵千家尊福　印

資料2

うらわかたけのふしのまも
　　庭のをしへを守りつゝ
まなひの窓の明くれに
　　つとめて國をも
　　とませかし

むかしにまさる今の御代いまより
ます／＼とまむ里名もよし川を
行水のつきせぬ幸こそたのしけれ

なかれてやまぬ水見ても
　　業をつとめておこたるな
里の名におふよし川は
　　世のかゝみとも
　　なるまてに

明治二十九年二月芳川学校の新築に
書きて　　従三位男爵千家尊福　印（「尊福」）

資料 3

吉川小学校校歌（歌詞訳）　作詞：千家尊福　作曲：鈴木米次郎　【現代語訳作成：文化財保護担当】

【原文】

うら若竹のふしのまも
庭の教えを守りつつ
学びの窓のあけくれに
務めて国をも富ませかし

昔にまさる今の御代
今よりますます富まん里
名も吉川を行く水の
つきせぬ幸こそたのしけれ

流れてやまぬ水みても
業をつとめておこたるな
里の名におう吉川は
世の鏡ともなるまでに

【現代語訳】

まだ生えたばかりの若竹の、幹が伸び切らずに節が詰まった状態の頃のように幼いうちから
家庭や家業での言いつけを守り
学校で日々学んで
将来の担い手として（自分だけでなく）日本を豊かにしましょう

昔よりも豊かに暮らしやすくなった今の時代
今よりもっと栄えていくであろうこの地
（地名にもなっている、「吉」と良い字のつく）その名も吉川を流れる水が
いつまでも変わらずにいて（豊かな水の恵みをもたらして）くれる幸いこそが満ち足りているということだ

流れを止めない水をみても（流れ続ける水のように）
学びや仕事に取り組むことを怠るな
この地の名の由来である吉川（の恵みを受けて育った子供たち）は
社会の手本となるのだから

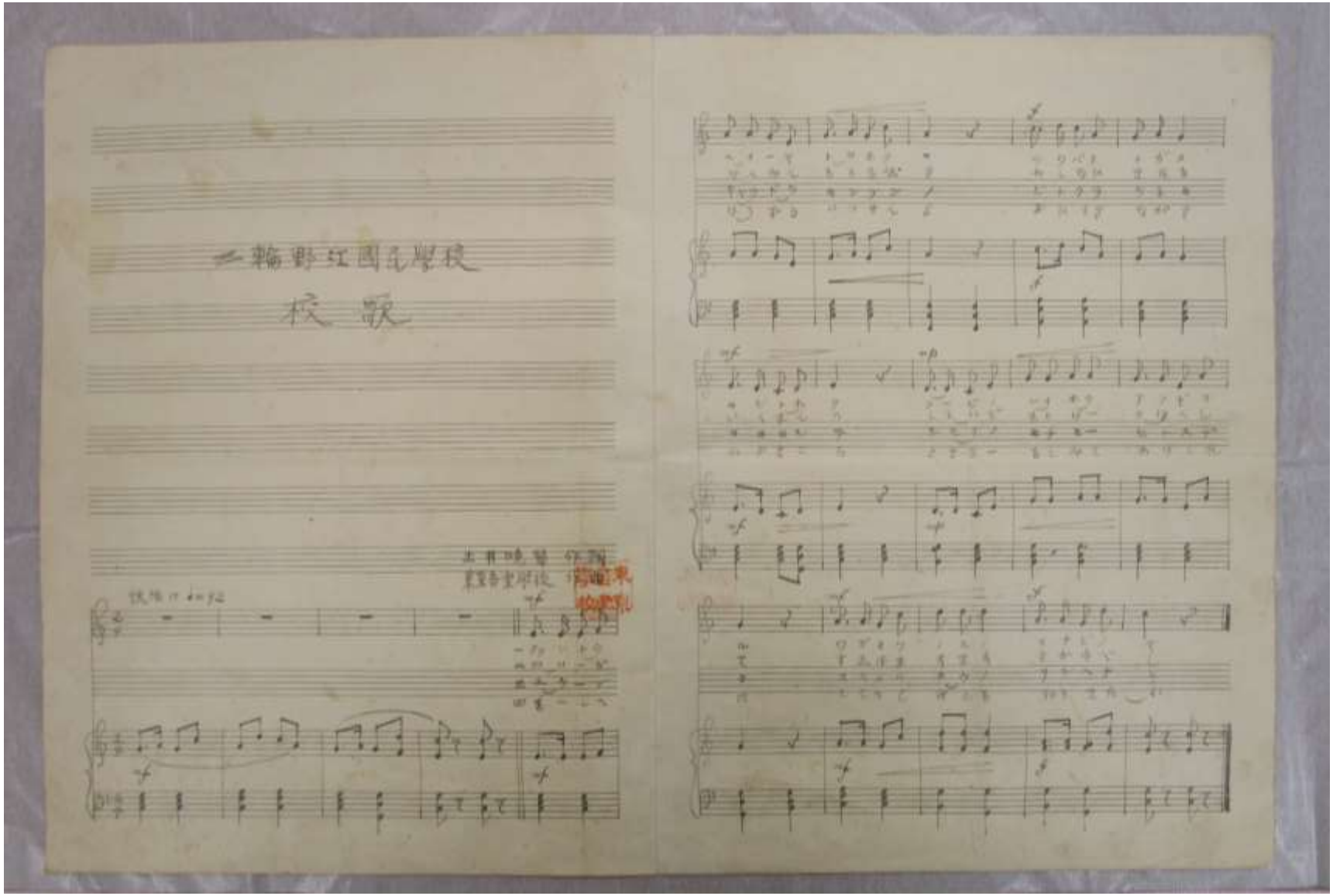
令和５年度　市指定文化財候補文化財　調査報告書

令和５年10月２日

種別・種類	有形文化財　歴史資料		
名　称	三輪野江国民学校校歌原本一式及び額（①楽譜　②送付状　③認可証　④三輪野江小学校校歌額（相上嶺南書）	点数	4点
寸　法	①31.3cm×46.2cm（見開） ②25.5cm×18.3cm ③24.7cm×17.0cm ④外寸　高さ48㎝　幅123.5㎝　厚さ2.5㎝ 本紙（書部分）　高さ33㎝　幅90㎝		
所在場所	三輪野江小学校		
所有者	吉川市大字加藤641 三輪野江小学校		
管理者	所有者と同じ		
調査日・場所	情報収集：7月　埼玉県立文書館データベース 資料確認調査：6月29日　市役所202会議室【調査員・文化財保護担当】　7月13日　東京藝術大学未来創造継承センター大学史史料室		
調査員	染谷行宏委員・新井浩文委員		
史料の概要	・昭和19年(1944)に東京音楽学校（現東京藝術大学）より送付された三輪野江国民学校（現三輪野江小学校）校歌の楽譜・歌詞、送付状と、埼玉県による校歌としての使用を認める認可証及び昭和22年4月に書かれた校歌歌詞（紙本墨書）額装の計4点 ・校歌制定当時の資料がそのまま残っているのは貴重である。 ・戦後に歌詞の一部が変更されていることが確認できる。		
調査報告	三輪野江小学校は明治6年(1873)に開かれた3つの学校に始まり、統合・改称を経て明治41年(1908)に三輪野江尋常小学校、翌42年には三輪野江尋常高等小学校、昭和16年(1941)に三輪野江国民学校となり、昭和22年(1947)に現在の三輪野江小学校へと改称した。吉川小学校、旭小学校とともに市内最古の小学校である。 今回、東京藝術大学での史料調査により、作詞した土井晩翠の歌詞原稿や当時の校長が東京音楽大学を訪れ作曲を依頼した資料が見つかり、校歌が作られた経緯の一部が明らかになった。 作詞の土井晩翠は「荒城の月」の作詞者としても知られ、校歌の作詞も多く手がけている。作曲の下総皖一は北埼玉郡原道村（現加須市）出身で、こちらも童謡や校歌を数多く手がけ、その作曲数は1,200曲以上にのぼるという。 校歌の作成は昭和19年(1944)、戦時下だったこともあり、当時の政情を残す「勇武」という単語を、戦後は「勇気」へと変更している。その変更前の歌詞と完成した校歌の送付状並びに県からの認可証が揃って残されていることは貴重であり、学校の歴史や市の教育史においても貴重な歴史資料であるといえる。		
その他	学校で保存することは火災、水害などの危険性があり、また教職員の人事異動により継続して資料を管理することが難しいため、市教育委員会に当資料を寄託し、文化財保護担当により適切に管理・保存されることが望まれる。		

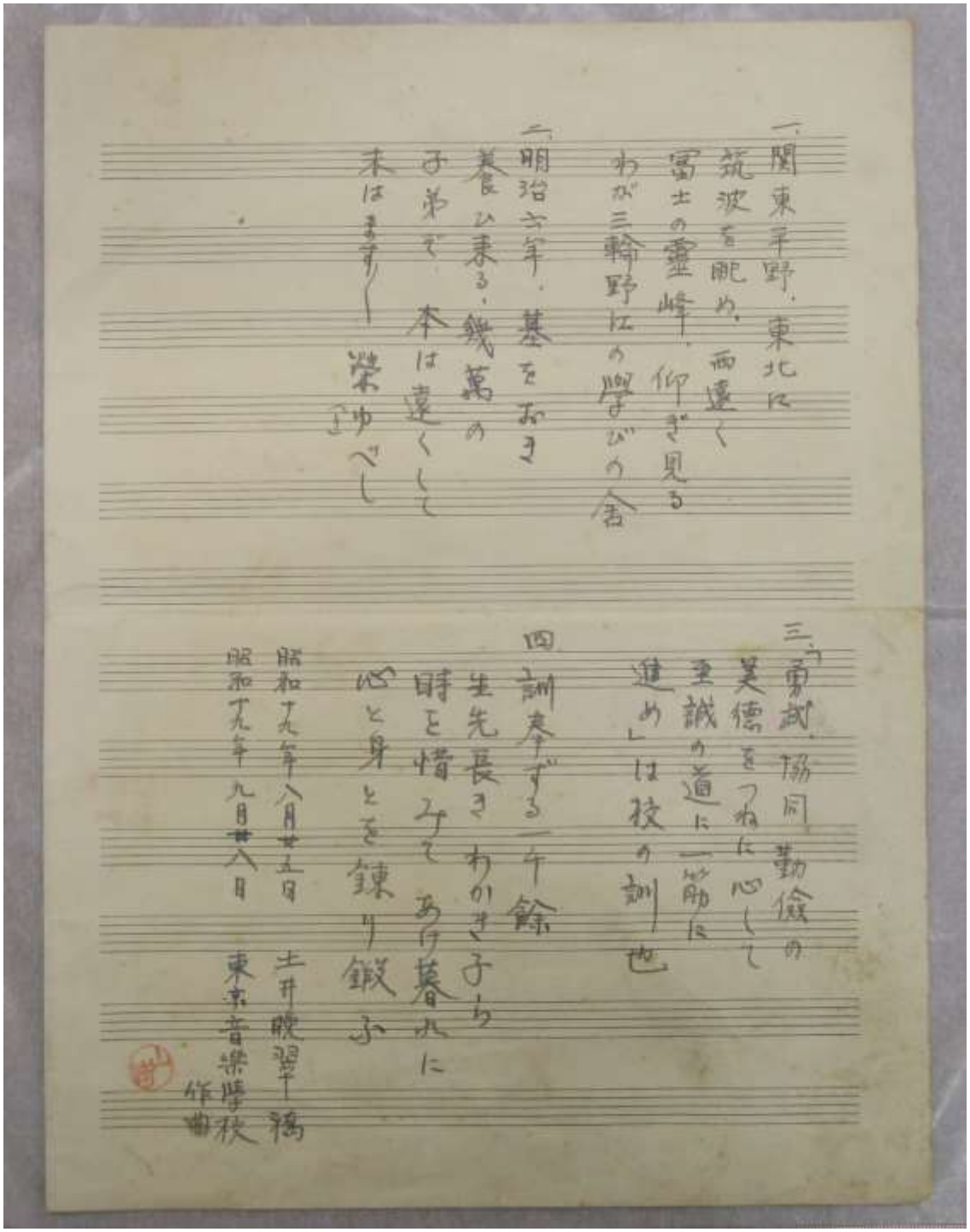
別紙：資料１・資料２・資料３・資料４・資料５・資料６

資料１



①楽譜（内側）

資料には、「土井晩翠　作詞　　東京音楽学校　作曲」と書かれている。



一、関東平野、東北に
筑波を眺め、西遠く
富士の霊峰、仰ぎ見る
わが三輪野江の學びの舎

二、明治六年、基をおき
養ふ来る、幾萬の
子弟で　本は遠くして
末はまさに　榮ゆべし

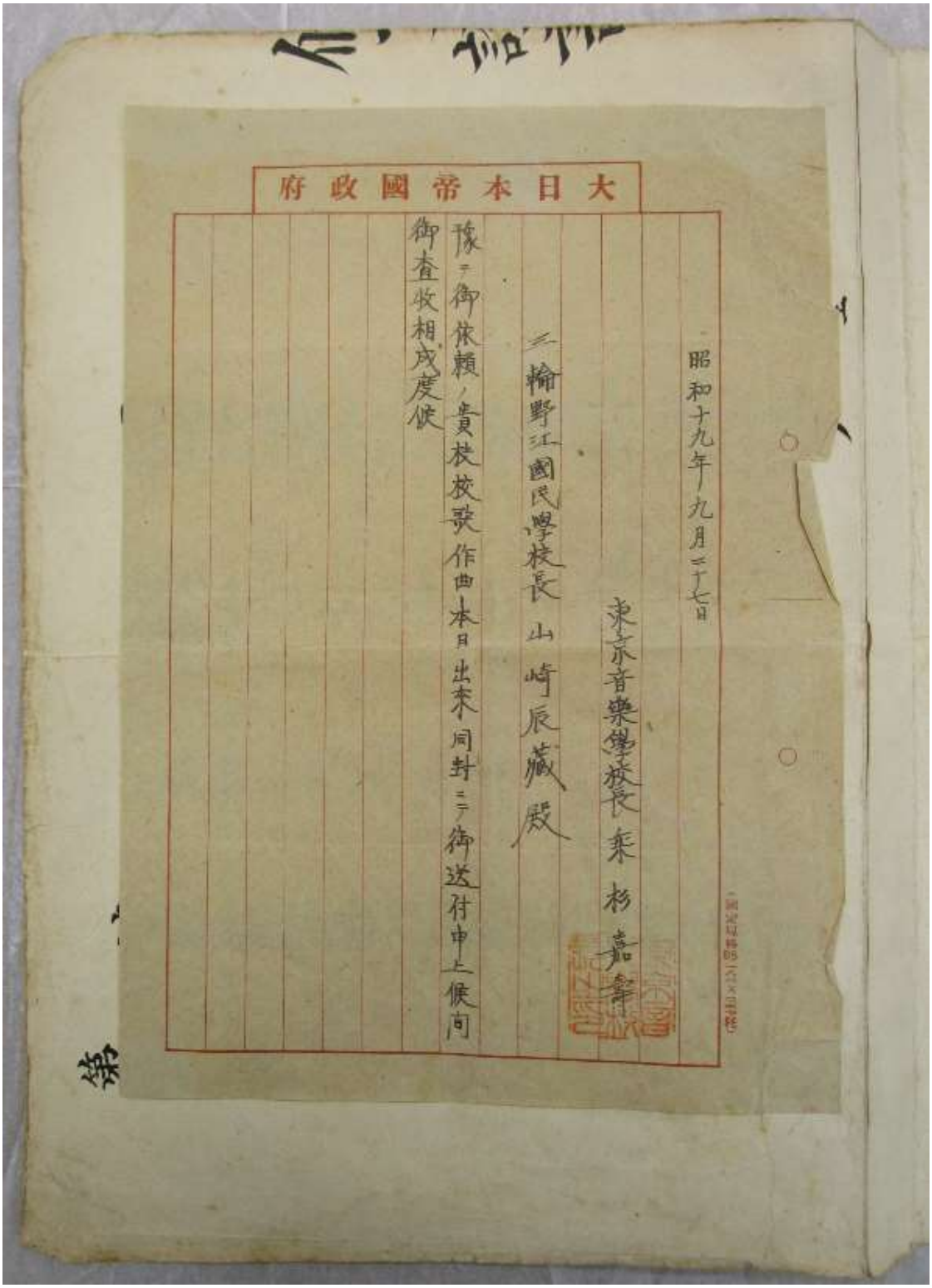
三、「勇武、協同、勤儉の
美德をつねに心して
至誠の道に一筋に
進め」は我が訓也

四、訓育ずる一千餘
生先長き わかき子ら
時を惜みて あけ暮れに
心と身とを錬り鍛ふ

昭和十九年八月廿五日　土井晚翠 稿
昭和十九年九月廿八日　東京音樂學校 作曲

①楽譜（外側）

資料２



大日本帝國政府

昭和十九年九月二十七日

東京音樂學校長 乘杉嘉壽

三輪野江國民學校長 山崎辰藏殿

豫テ御依頼ノ貴校校歌作曲本日出來同封ニテ御送付申上候間
御査收相成度候

②送付状

昭和１９年９月２７日付けで、東京音楽学校長が三輪野江国民学校長に対して、「依頼のあった校歌の作曲が出来上がったので送付します」と記した文書。この文書の控えが東京藝術大学未来創造継承センター大学史史料室に残されている。

資料３

十九指令 新收第十二二二九號

昭和十九年十月十三日付 三輪第二二二八一號ヲ以テ

埼玉縣知事ヨリ

昭和十九年十月十六日

埼玉縣知事

埼玉縣

③認可証

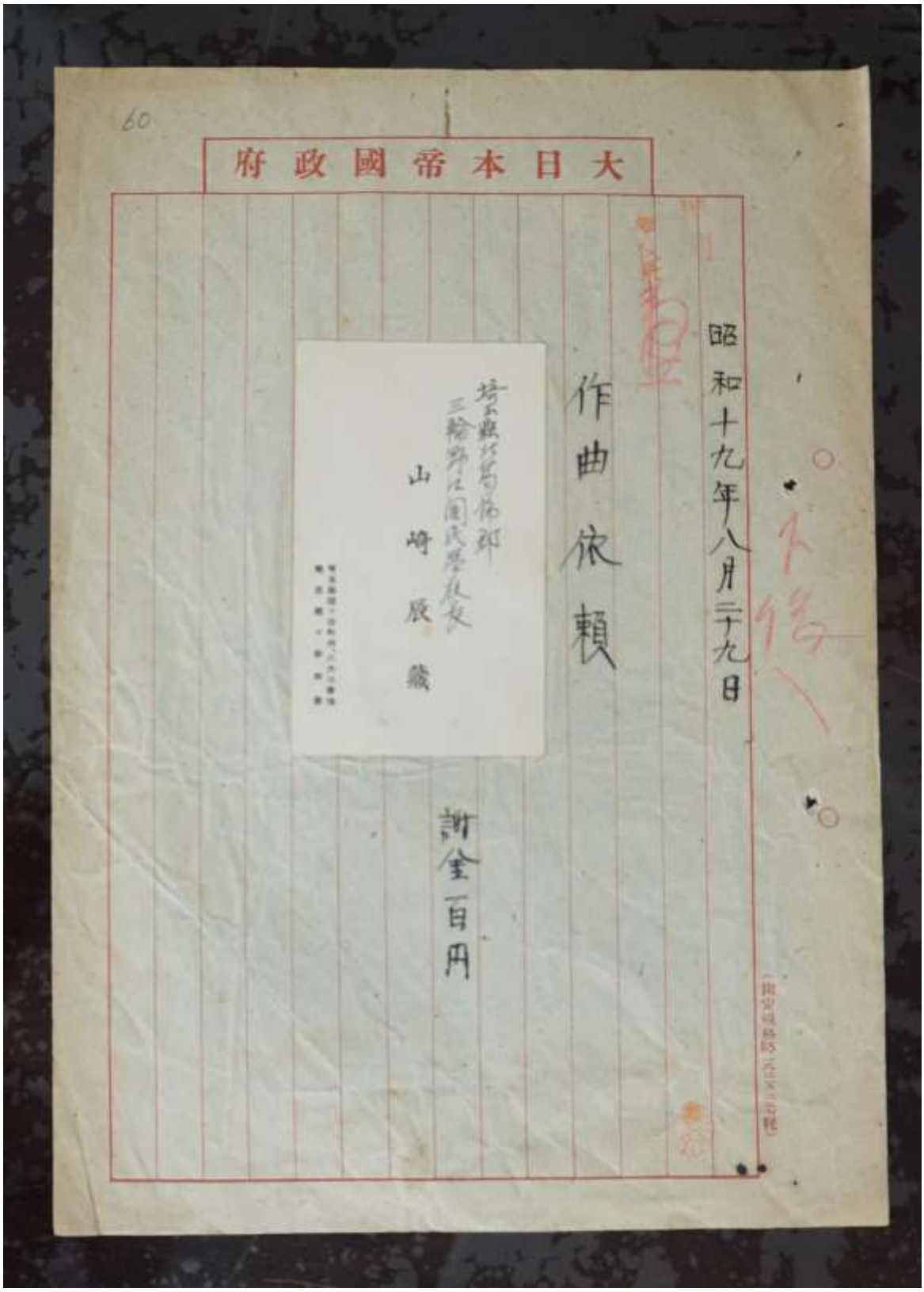
埼玉県知事が三輪野江村村長に対して、「昭和１９年１０月１３日付けで、「国民学校用歌詞楽譜に関する件認可す」との文書。

資料４

④三輪野江小学校校歌　相上嶺南書（紙本墨書・額装）

昭和２２年４月に桐上嶺南が書いた三輪野江小学校校歌。昭和２２年４月は三輪野江小学校に改称した時期である。①楽譜の資料との比較で、校歌３番の歌詞「勇武」が当資料では「勇気」（現在の歌詞）に変わっていることがわかる。

資料５

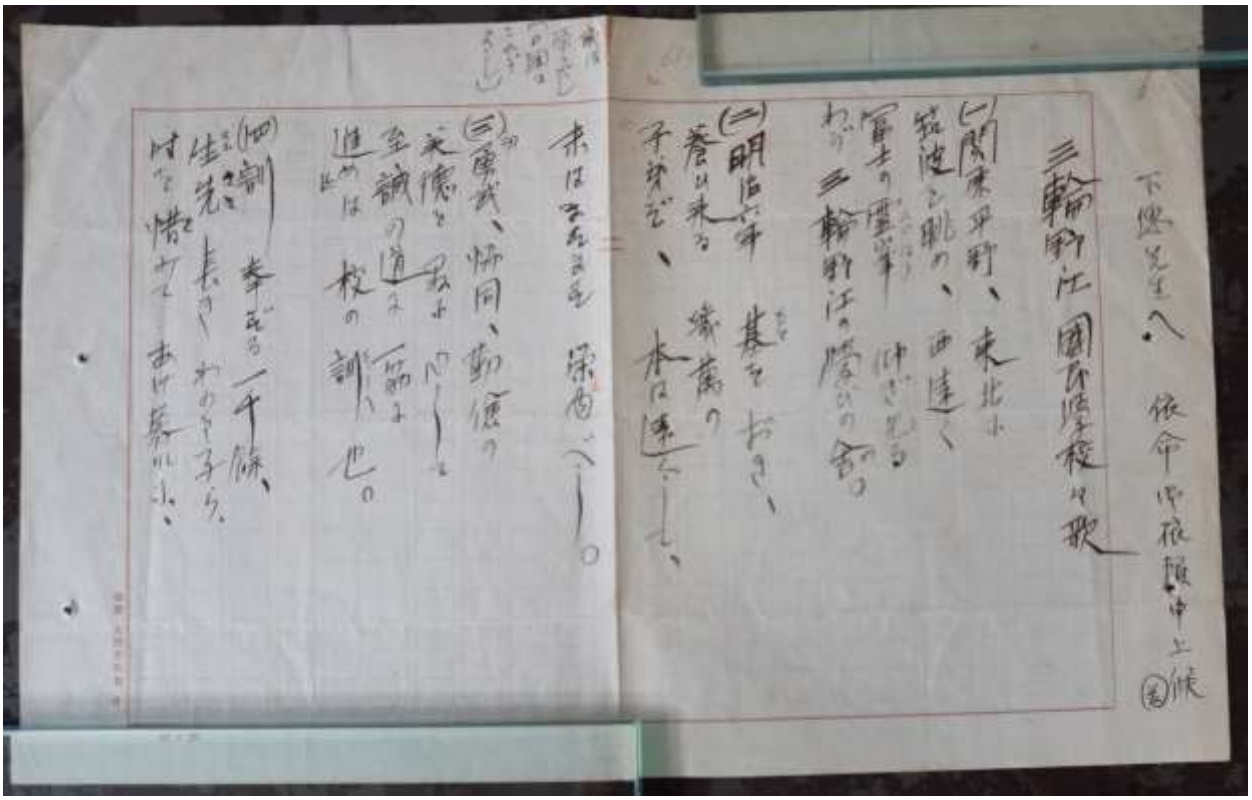


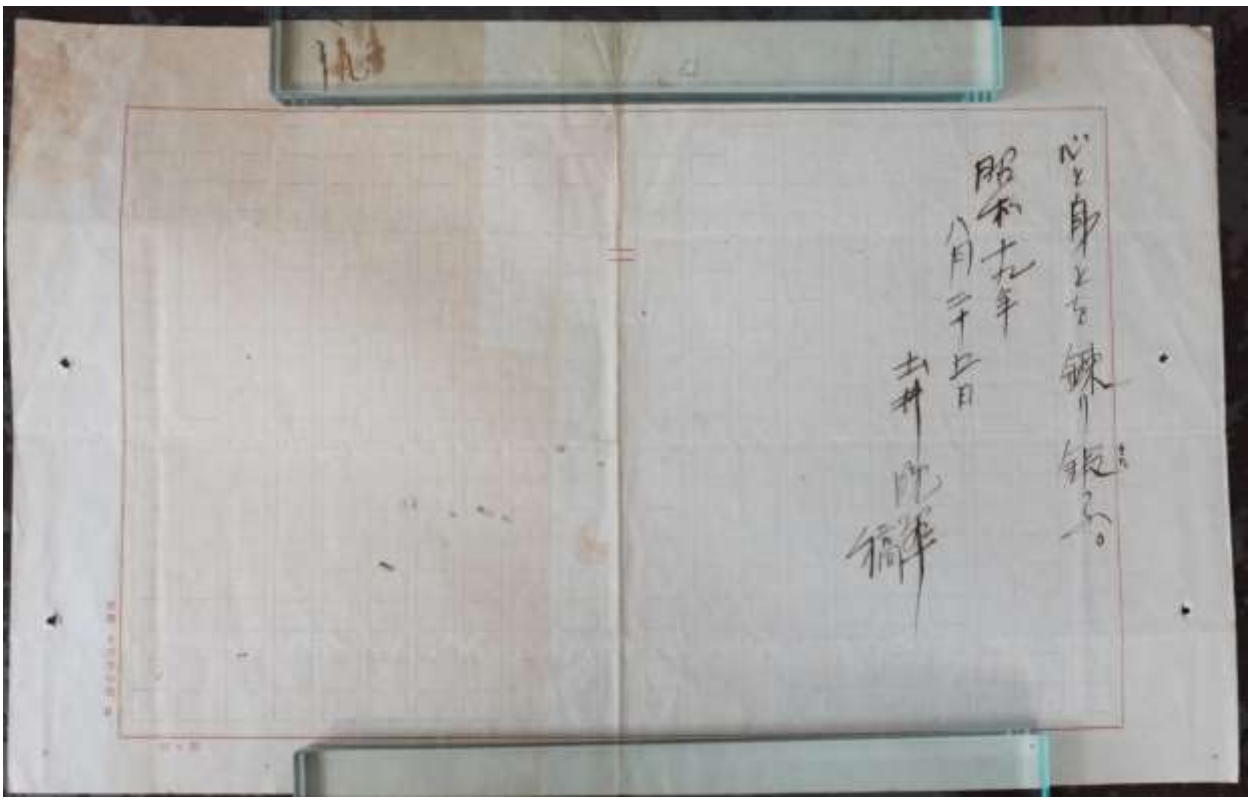
◇他団体が所蔵する資料

昭和１９年８月２９日に、三輪野江国民学校長が東京音楽学校に来校し、差し出した名刺

東京藝術大学未来創造継承センター大学史史料室　所蔵

資料６





◇他団体が所蔵する資料

昭和１９年８月２５日に土肥晩翠が書いた歌詞。余白部分に「下總先生へ依命御依頼申上候　㊥　」と書き込みがある。

東京藝術大学未来創造継承センター大学史史料室　所蔵